

Actinotignum schaalii による乳房蜂窩織炎・腹部膿瘍の 1 症例

◎木下 愛¹⁾、清水 馨¹⁾、塚口 扶美枝¹⁾、大輪田 晴香¹⁾、池本 敏行¹⁾
滋賀医科大学医学部附属病院¹⁾

【序文】*Actinotignum schaalii* は嫌気性グラム陽性桿菌であり、コリネ様の形態を呈する。フルオロキノロン系、ST の MIC が高値を呈する事があり、尿路感染症からの分離例が報告されているが、尿路以外からの分離は稀とされている。今回我々は *A. schaalii* による乳房蜂窩織炎・腹部膿瘍の 1 症例を経験したので報告する。

【症例】60 代 女性 左乳房上外側部乳癌のため当院受診され乳房切除および再建術（腹直筋皮弁法）を施行された。X 日、定期受診にて 40 度の発熱および再建乳房に著明な発赤・硬結を認め乳房蜂窩織炎・腹部膿瘍と診断され緊急入院、切開排膿を施行、検体が細菌検査に提出された。周術期および X+1day まで CEZ を投与。発熱および炎症所見の遅延があり、検体のグラム染色および培養の途中経過から嫌気性菌および *Corynebacterium kroppenstedtii* 等の関与が疑われたため、X+2 day より ABPC/SBT+CPFX に変更。その後発熱および炎症マーカー局所所見改善を認め、X+10day に ABPC+AMPC/CVA+LVFX 内服に変更、経過良好のため退院された。

【細菌学的検査】提出された検体のグラム染色ではぶどう状の陽性球菌(嫌気性グラム陽性球菌)、コリネ様の陽性桿菌を多数認めた。血液/BTB 寒天培地（5%炭酸ガス）、PEA 添加ブルセラ寒天培地（嫌気）、乳房からの検体であることから CK の関与を考え Tween80 を添加した血液寒天培地（好気）にて培養を行った。炭酸ガス培養、嫌気培養にて 48 時間で直径 1mm 程度のコロニーの発育を認めた。バイテック 2(バイオメリュール)にて *A. schaalii* と同定され(確率 99%)生化学的性状も加味した上で本菌と同定した。（後に質量分析でも同様の結果を得た）

【考察】CK における抗菌薬は移行性の観点からフルオロキノロン系が選択される事が多いが、今回検出された *A. schaalii* は MIC 高値であることが多い。稀ではあるが、乳房からの検体であっても本菌による感染症も念頭に置いた上で検索をすすめることが必要と考えられた。

【会員外共同研究者】当院形成外科 岡野 純子 先生
島田 加奈 先生

【連絡先】077-548-2607